

MG1015-07

会場:展示ホール7別室2

時間: 5月24日15:30-15:45

## WMO情報システムの開発

### Development for WMO Information System

豊田 英司<sup>1\*</sup>

Eizi TOYODA<sup>1\*</sup>

<sup>1</sup>気象庁予報部情報通信課

<sup>1</sup>Japan Meteorological Agency

世界気象機関（WMO）では、すべてのプログラムの情報通信・データ管理機能のための総合的な基盤として、WMO情報システム（WIS）を構築しているところである。全球地球観測システム（GEOS）の「システムを統合するシステムsystem of systems」のうち、WISは気象・水・気候分野に関する中核的システムとなることになっている。

2007年の第15回世界気象会議（WMO総会）の合意により、WISは2つの平行したパートで行われる。パートAは1960年代から気象業務のミッションクリティカルなデータ通信を行ってきた全球気象通信網（GTS）の維持発展であり、パートBは認証された利用者への柔軟なデータ発見・アクセス・取得および柔軟な適時の配信サービスによる新しい情報サービスである。WISのネットワークは、全球的な配信が求められるデータを中継するとともに全WISのメタデータを集約してオンラインのカタログ（クリアリングハウス）を提供する全球情報システムセンター（GISC）、地域的な配信中継または特別なプロダクトの提供を行うデータ収集・プロダクトセンター（DCPC）、および全ての加盟国が運営する国家センター（NC）の3種のセンターから構成される。オンラインカタログや、データ形式の互換性向上のため、ISO19100シリーズの地理情報標準を用いた技術開発が行われている。

本講演においては気象庁における現在の開発状況および技術について紹介する。

キーワード: 気象, 世界気象機関, 通信技術, クリアリングハウス, メタデータ, GEOS

Keywords: Meteorology, WMO, Telecommunication, Clearinghouse, Metadata, GEOS